

WHO ファクトシート

変異型クロイツフェルト・ヤコブ病

Variant Creutzfeldt-Jakob disease

ファクトシート No. 180

2012年2月

重要な事実

- ・変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）は、発症はまれであるが致死的なヒトの神経変性疾患である。
- ・牛海綿状脳症（BSE・狂牛病）の病原体に汚染されたウシ由来の食品の摂取により、ヒトのvCJDが発症すると考えられる。
- ・1996年10月から2011年3月、英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）において175例、その他の国々で49例のvCJDが報告されている。
- ・ウシのBSE流行の封じ込めに成功したことで、英国におけるvCJDの症例は2000年以降減少している。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分についての日本語版の翻訳権をWHO事務局長より付与され、WHO健康開発総合研究センター（WHO神戸センター）の協力のもと作成したものです。日本語版に対する責任は全て日本WHO協会が負います。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Variant Creutzfeldt-Jakob disease ファクトシート原文は [こちら](#)